

【院長挨拶】

平成30年3月に厚労省から「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」という少し長いタイトルの報告書が出ました。平たく言えば、「人生の最終段階＝終末期」の医療・ケアについて、事前に決められることは決めておこうという趣旨と解します。ポイントとして、本人の意思を尊重するが、それは変わり得るものであり繰り返し確認すること、本人が意思を伝えられない状況下では代わりにその意思を決定する家族などを予め決めておくこと、病院・介護施設・在宅などのそれぞれの場面を想定し、それに応じた配慮をすること、多職種からなるチームで話し合い意思を共有すること、そのプロセスをその都度文書にしておくことなどが挙げられています。



ガイドラインでは普段から本人や家族で話し合い、意思を確認しておくよう勧められていますが、急性期病院においても、入院を契機にして患者さんが自らの人生の最終段階での医療やケアについて考え、いわゆるACP(advanced care planning)を持つ必要性を感じます。人生の価値観や治療の選択について、本人が決めるプロセスを多職種チームでサポートする時期に来ているのではないのでしょうか。

寺柿 政和

【神経内科外来の増枠】

今回、大阪市立大学医学部神経内科学教室より青原健太先生に非常勤医師として当院で勤務いただくこととなりました。午前の外来を担当いただく事となります。神経内科の外来担当表は、下記の通りとなります。よろしく願いいたします。

		月	火	水	木	金	土
神経内科	一 診	—	—	—	今井 輝國(PM)	青原 健太	小坂 理(PM)

【医療安全管理室責任者就任のあいさつ】

2018年9月1日より、医療安全管理室室長に任命されました早瀬香（はやせかおり）と申します。2008年医療安全管理者研修を受講し、その後専従ではありませんが専任業務や委員会活動という形で医療安全に関わってきました。



1999年の患者取り違え事故から社会的背景を経て、「医療の安全確保」が求められ、昨今ではIT化により医療に対する情報がすぐ手に入り、医療安全に対する関心や知識なども高まっています。

また、今年度の診療報酬の改定においても『医療安全対策地域連携加算』という制度が設けられ、地域包括ケアの一旦として医療安全の連携の重要さがうたわれております。

専従としての経験は少ないですがこれまでの経験を踏まえ、安全文化や知識の共有を目指し、地域の医療安全の連携を目指して努力していきたいと思っております。

内科医師就任の挨拶

内科 医長 木田 裕子

平成30年4月より消化器内科医長として着任いたしました木田裕子（きたゆうこ）と申します。平成10年に香川医科大学（現香川大学）医学部を卒業後、香川大学消化器神経内科に入局、大学院修了後は地元香川県にて消化器内科診療に従事して参りました。日々の診療の中で昨今増加している炎症性腸疾患に興味を持つようになり、平成27年より兵庫医科大学炎症性腸疾患内科に国内留学させていただいた後、今回東住吉森本病院で勤務させていただくこととなりました。



消化器一般の検査、処置、診療をはじめ、炎症性腸疾患についても地域の皆様のお役に立てればと考えております。着任して約半年間ですが、地域の先生方との連携の大切さを日々感じつつ診療にあたっております。微力ながら地域医療の一助となりますよう努力して参ります。よろしくお願い申し上げます。

内科医師就任の挨拶

内科 医長 堀田 潔

4月1日より消化器内科医長として着任いたしました堀田潔（ほったきよし）と申します。平成14年岐阜大学を卒業し、同年、大阪市立大学医学部消化器内科に入局しました。その後内視鏡検査中心にいくつかの関連病院で診療を行い、この度東住吉森本病院で勤務させて頂く事となりました。過去に勤務歴があり、非常に愛着のある病院でもあります。以前より内視鏡検査、治療の件数が豊富な病院で、上・下部内視鏡、ERCP(内視鏡的胆管膵管造影)、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)、胃瘻造設術、内視鏡的ステント留置術、緊急内視鏡治療等、日々様々な手技を施行しております。消化器疾患、内視鏡検査・治療に関しましては、開業医の先生方からの病診連携でのご紹介なくしては成り立たず、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



循環器内科医師就任の挨拶

循環器内科 寺下 和範

平成30年9月より循環器内科医員として着任いたしました寺下和範（てらしたかずのり）と申します。平成24年に大阪医科大学を卒業後、初期臨床研修を経て平成26年に大阪市立大学循環器内科学に入局しました。大学病院で後期臨床研修を行った後、専門を冠動脈疾患・末梢血管疾患として関連病院で診療に従事してまいりました。人口の高齢化や疾病構造の変化により、虚血性心疾患は増加してきています。不整脈・心不全・心臓弁膜症・末梢動脈病変など循環器疾患自体も多様化しており、一人の患者様が複数の循環器疾患を持っていることも珍しくありません。当院では心エコー・冠動脈CT・運動負荷検査・カテーテル検査で的確な診断を行う事が可能であり、薬物治療・心臓リハビリテーション・カテーテル治療でひとりひとりの患者様に最適な治療を提供していく所存です。症状が急激に起きた場合の緊急治療から、原因となる動脈硬化に対する継続的治療まで、最近の医学的知識やこれまでの臨床経験を駆使して地域医療に貢献できれば幸いです。専門性が高く幅広い領域ですが、当院では地域のクリニックの先生方と密接な連携をとり、より安全・安心な医療を提供できるように心がけておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



【第11回 大阪市南部地区緩和ケア連携カンファレンスを実施】

開催日：2018年8月30日（木）17時30分～19時00分

会場：当院6階職員食堂

テーマ：緩和ケアに必要な連携 –ともに希望を支えるために–

司会：東住吉森本病院 緩和ケア病棟師長 江口 由紀

講師：東住吉森本病院 緩和ケア科部長 大場 一輝先生

緩和ケアに従事する在宅支援者（かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネージャー、訪問介護士など）と当院スタッフ総勢64名が参加し、東住吉区では年1回行われているワールドカフェ形式で、肺癌患者の事例をもとにカンファレンスを行いました。「現在担当している患者の支え方のヒントが得られた」や「ひとつのグループだけでなく、移動して他参加者とも対話ができるため、色々な意見が聞けて非常に面白く感じた」など、活発な意見交換ができ盛況のうちに終わりました。



【連載 no.12】 ～インフルエンザの流行に備える～

感染防止対策室 室長 荻田 千歌

インフルエンザ流行シーズンに向けて

毎年、冬季にはインフルエンザの集団感染事例が報道されています。特にインフルエンザはひとたび流行すると短時間で感染が拡大するため、日常から感染対策を強化しておき流行期に備えることが大切です。

インフルエンザの概要

感染経路	飛沫感染：咳やくしゃみの際に口から発生する飛沫による感染。 接触感染：飛沫により汚染した手指やドアノブ、電話など公共物を介した感染。
潜伏期間	1～3日間程度
症状	発熱・頭痛・咳・鼻水・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛

インフルエンザの感染対策のポイント

患者の隔離（外来）	インフルエンザを疑う場合、サージカルマスクを装着し、他の患者と接触しないように2m程度離れた場所で待機していただきます。可能な限り優先的に診療を行い滞在時間が短くなるよう配慮しましょう。
病室（入院）	入院は原則個室とします。 ただし、複数名の患者が発症する場合はコホート隔離（※）も可能です。
マスクの着用	呼吸器症状のある患者にはサージカルマスクを着用していただき、周囲に飛沫が拡散しないようにしましょう。医療従事者も呼吸器症状のある患者に接するときは、サージカルマスクを着用しましょう。
手指衛生	手指や公共物を介した接触伝播を避けるためにはこまめな手指衛生が重要です。アルコール性の手指消毒剤を活用し手指衛生に努めましょう。
環境清掃	頻回に手の触れるドアノブや電話やPCなど、こまめに環境清掃を行いましょう。
ワクチンの接種	医療従事者のワクチン接種を推進しましょう。
面会の制限	流行期の面会は可能な限り最小の範囲とし、幼児や高齢者の面会は避けましょう。

※コホート隔離とは：病原体ごとに行う集団隔離

【感染管理研修会開催】

日時：平成 30 年 9 月 14 日（金）16:00 ～ 17:00

場所：6 階講堂

対象：全職員

演題：院内肝炎ウイルス症例への対応と取り組み

講師：大阪市立大学大学院

医学研究科肝胆膵病態内科学

病院教授 田守昭博 先生



定期的に行っている感染管理研修会を開催いたしました。肝炎ウイルスの基礎知識から感染経路とその予防、最新の治療についてコメディカルにもわかりやすく解説頂きました。当日は、120名の参加でした。

【はつらつ健康セミナー開催】

日時：平成 30 年 10 月 2 日（火）13:30 ～ 15:00

場所：6 階講堂 対象：地域住民の皆様



地域の住民の皆様を対象とした公開セミナー「はつらつ健康セミナー」を開催いたしました。今回は、院内の緩和ケア認定看護師によるアドバンス・ケア・プランニングの講義をはじめ、東住吉区保健福祉センターのご協力もあり健康体操などのプログラムをご用意しました。約 30 名の方々が参加されました。

【平成 30 年台風第 21 号上陸】

去る 9 月 4 日台風 21 号が関西圏に上陸しました。前回地震と同様、幸いなことに患者様、職員には大きな被害はありませんでした。病院の建物は外来の天井ガラス、サッシ、駐車場の屋根などが破損しましたが、その他は主に大きな被害はありませんでした。しかし近隣の長居公園では、樹木が倒れたり折れたりしておりました。

当日、救急外来では主に外傷関連の患者さんが多数来院し、救急・総合診療科以外の科も協力し診療にあたりました。



■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の子防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平 日 9：00 ～ 20：00

土曜日 9：00 ～ 17：00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代